



AETO & AEP2

Asian and Middle Eastern Studies, Part IA and Preliminary Examination
for Part II

Easter 2021

Paper J3

Modern Japanese texts 1

Answer *all* questions.

Write your number **not** your name on the cover sheet of each answer booklet.

STATIONERY REQUIREMENTS

20 page answer booklet

Rough Work Pad

SPECIAL REQUIREMENTS TO BE SUPPLIED FOR THIS EXAMINATION

None

You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed to do so.

Section A

(1) Translate the following passage from a **seen** text into English [20 points]

中国やロシアと戦う 日本は、明治の初めに、朝鮮に不平等な条約を結ばせて勢力をのぼそうとしました。朝鮮では中国（清）のえいきょう力が強かったため、日本と清は対立を深めました。

1894年、朝鮮に内乱が起きると、日本と清は、⁵
それぞれ軍隊を朝鮮に送り、両国の間で**日清戦争**が始まりました。この戦争に勝った日本は、清から賠償金をとり、さらに台湾などを日本の植民地にしました。

このような動きに対し、中国東北部（満州）に¹⁰
勢力をのぼそうとしていたロシアは、日本の動きに干渉し、日清戦争で手に入れた領土の一部を清に返させました。ロシアはまた、満州へ軍隊を送り、朝鮮（韓国）にも勢力をのぼしてきました。

日本とロシアの対立は深まっていき、1904年に¹⁵

Question 1 continues...

日露戦争となり、日本は満州のロシア軍をせめま
した。日本は多くの戦死者を出しながらも、日本
海での戦いでロシア艦隊を破った東郷平八郎らの
活やくもあり、戦争に勝ちました。

- 5 その結果、講和会議において、
樺太（サハリン）の南部と満州の
鉄道などを得て、韓国を日本の勢
力のもとに置くことをロシアに認
めさせました。しかし、戦争の費用負担などで苦
10 しんだ国民の間には、不満が残りました。



東郷平八郎

- 中国やロシアに対する日本の勝利は、欧米諸国
に日本の力を認めさせ、欧米の支配に苦しむアジ
アの国々を勇気づけました。一方で、日本人の間
には、朝鮮人や中国人を下に見る態度がだんだん
15 と広がっていきました。

Kita Toshio, ed., *Atarashi shakaishi*, 2015, p. 118-119.

(TURN OVER)

(2) Translate the following passage from a **seen** text into **English**. Include the date chart. [25 points].

キリスト教の禁止と鎖国 江戸幕府は、初め外国との貿易をさかんにしようとして、大名や商人に許可状（朱印状）をあたえて外国との貿易を保護しました。その結果、多くの貿易船が東南アジアなどに向かい、各地に日本町がつくられました。また、外国の貿易船が東アジア各地から西日本の港へやってきました。

しかし、外国の貿易船に乗ってきた宣教師たちにより、国内にキリスト教の信者が増えていくと、江戸幕府は、神への信仰を重んじる信者たちが幕府の命令に従わなくなることを心配してキリスト教を禁止し、信者を取りしめるようになりました。さらに、宣教師や貿易船の出入りを制限し、人々が海外に行くことや海外から帰ってくることを禁止しました。このようなとき、九州の島原（長崎県）や天草（熊本県）で、キリスト教の信者を中心に3万数千人も

Question 2 continues...

の人々が重い年貢の取り立てに反対して一揆を起
こしました。徳川家光は、大軍を送ってこの一揆
をおさえました。

その後、キリストなどの像を踏ませる絵踏みを
5 行って信者を発見し、キリスト教をいっそう厳し
く取りしまりました。また、貿易の相手を、キリス
ト教を広めるおそれのないオランダと中国に限り、
貿易船の出入りを、幕府の港町である長崎に限っ
て認めました(鎖国)。長崎には出島や唐人(中国
10 人)やしきがつくられ、役人や一部の商人などを除
いては、出入り
が許されませ
ん
でした。以後の
貿易は、幕府だ
15 けが行うこと
になりました。

⑧鎖国までの歩み

年	主なできごと
1612	キリスト教を禁止する
1616	ヨーロッパ船の来航を長崎、平戸に制限する
1624	スペイン船の来航を禁止する
1635	日本人の海外渡航・帰国を禁止する
1637	島原・天草一揆が起こる
1639	ポルトガル船の来航を禁止する
1641	平戸のオランダ商館を出島に移す (鎖国の完成)

Kita Toshio, ed., *Atarashi shakaishi*, 2015, p. 84-85.

(TURN OVER)

(3) Translate the following passage from a **seen** text into **English** [25 points].

無人ホテル

三好創也

無人ホテル第一号店が開業してから、もう五十年以上がたつ。今では全国至る所で目にするようになったが、彼がその種のホテルに興味を示したことはない。ロボットが人間を出迎えるということに拒否感を持っていたためだ。それにもかかわらず、今はそこへ向かっている。

「ずいぶん殺風景なホテルだな」

彼はエントランスホールに入り、フロントロボットを呼び出した。

「イラッシャイマセ」

「ここに泊まりたいんだが」

「アナタハモウ、トマッテイマス。ジソクゼロキロメートルデス」

「そのとまるじゃない。宿泊したいのだ」

「アア、シユクハクデスカ。デモ、アナタハニンゲンデスネ？ キテイニヨリ、ニン

Question 3 continues...

ゲンハ、シユクハクデキマセン」

「そんなばかな！　じゃあ誰のためのホテルなんだ？」

「ペットデス」

「ペット？」

彼が訪れた無人ホテルは不運にもペット用のカプセル型ホテルだった。ここでは、エサの投入も温度管理もカプセルごとにコンピュータで自動制御され、中の様子はリアルタイムで飼い主に送信される。カプセルは多種多様であらゆる動物に対応している。管理人はトラブルが発生しないかぎり訪れない。つまりここは、人間が全く存在しない真正銘の無人ホテルなのだった。

「食事やサービスは一切いらないので、大型のカプセルを利用させてくれ。とにかく切迫してるんだ」

「シヨウシヨウオマチクダサイ」

フロントロボットはいったん奥の方に移動し、コンピュータの端末を操作した。ロボットは、自分のメモリに記憶されていた特殊な情報についてはインターネットで検索、調査し、その結果を吸収することにより成長していくようにできている。

「エエト、セツブクシテイルトイウコトハ……アナタハ、プシ、ナノデスネ。ザンネ

(TURN OVER)

ンデスガ、ブシデアッテモ、ニンゲンデアルイジヨウ、ニユウカンデキマセン」

「おいおい。俺が武士なわけないだろう。切腹ではなく切迫だ。緊急事態なのだ。もちろん金なら払う。滞在させてくれ」

ここが人間利用禁止のホテルだと知って、彼は何が何でもここに滞在しなければならぬと思うようになっていた。

「デモ、キソクハキソクデスノデ」

彼は憤慨した。

そもそも彼の人生が転落の一途をたどったのはロボットのせいだった。最初は掃除のような簡単なことしかしてなかった。ところが高度な人工知能が搭載されるようになってからは、あらゆる職場にロボットが登場するようになった。その結果、特別な技能を持たない人間は仕事を奪われていったのである。

もしロボットが本当に尊敬できる存在であるならば、彼も納得できただろう。しかしロボットが得意なのはマニュアルをこなす事だけだ。融通はきかず、冗談も通じず、言葉は額面通りにしか理解できない。その程度の存在でしかないロボットに蹴落とされてしまったことに彼の自尊心は大きくきずつけられていた。中には本当にすごい知能を持ったものもいるが、このフロントを含めてほとんどのロボットはそうではな

かった。

「おいおい、ふざけるんじゃないぞ！ 人間様を何だと思ってるんだ！ さつさと案内しねえとぶっ壊すぞ」

「ショウショウオオマチクダサイ」

ロボットは彼の顔を何度も見ているうちにある疑念を抱くようになっていた。彼の容貌が指名手配中の容疑者に非常に良く似ていると感じたのである。ロボットはより詳しく調べるため奥に移動し、ネットによる検索を開始した。

「おい、さつさとしろ、俺は本気だぞ！」

決して脅しではなかった。

職を失ってからこの二年間、彼は腹が立つことがあると民家に放火をしてストレスを発散してきた。いつのまにか中毒になっていた。窃盗、強盗なども繰り返した。

たまたま死者は出ていないため、捕まっても死刑は免れるだろう。しかし、逮捕されれば余生をロボットの看守に管理されながら送ることになる。それは彼の人間としての最後のプライドが崩されることでもあり、絶対に避けなければならぬことであった。そんな彼にとってこのホテルは身を隠すには絶好の場所だった。

「マチガイナイ」

(TURN OVER)

Question 3 continues...

外見分析で容疑者と彼の容貌は完全に一致した。さらにロボットは、ネット上の彼に関する記述、および今までの彼の言動から、重大な事実を突き止めた。

「スグニ、タイシヨスルヒツヨウガアル」

ロボットはあわてて彼の目の前に戻っていった。

「タイヘンシツレイイタシマシタ。ドウヤラアナタハ『ヒトデナシ』ダッタヨウデスネ」

ロボットは今まで誤解していたことを彼に謝罪し、速やかにチェックインの手続きを行ったのだった。

SECTION B

(4) Translate the following passage from an unseen text into English [30 points].

明治時代にも「礼法」は活躍した

今からおよそ一四〇年前、明治維新が起り、武士の時代が終わりました。明治時代になると、新政府には日本じゅうからいろいろな身分の人たちが参加しました。もとは農民や町人の人も多くいました。それまで公の場に縁がなかった人がたくさん政府の役職についたので、おじぎの仕方や礼儀が人それぞれで、混乱が生じました。「野人、礼になれず」といって、自分が礼儀知らずなのに開き直ったりする人も出たのです。

そこで政府は、礼儀作法の教育に乗り出しました。そのとき、学校で使う教科書作りを指導したのが小笠原流二十八代宗家・小笠原清務でした。小笠原流礼法は、新しい時代に

なっても人びとが互いを気づかい、気持ちよくつき合うために、役立つものだったのです。今でも、礼法を身につけることは社会人としての第一歩です。社会では、礼儀作法を身につけていない人はいろいろな誤解を受けます。つまり、思いをしないように礼法を身につけましょう。

礼法は毎日の心がけだけで、だれでも自然に身につけられるものなのです。



明治時代の
道徳の
教科書だよ。

(TURN OVER)

Vocabulary

礼法	etiquette, comportment, deportment
およそ	roughly
活躍する	to be actively involved in, to be engaged with
政府	government
身分	class, social status
農民	peasant
公	public
役職	official position, official post
礼儀 = 礼法	
それぞれ	each, respectively
混乱	confusion
野人	rustic, boor, bumpkin
開き直る	to be defiant even though deep in heart you know you are in the wrong
乗り出す = を始める	
指導	guidance
小笠原流	Ogasawara school of etiquette
お互い	reciprocally
気づかい	consideration
宗家	head of the school
誤解	misunderstanding
心がけ	attitude

END OF PAPER

Page 12 of 12